

学力向上全体構想図

横須賀の子ども像

『人間性豊かな子ども』

教育振興基本計画 学校教育編 目標1

「子どもの学びを豊かにします」

学力向上推進プラン(学校教育編目標1 施策(1)教育活動の充実 学力向上事業)

横須賀の全ての児童生徒に「確かな学力」の育成を図る

目標①：全国学力・学習状況調査において、小学校6年生、中学校3年生ともに全国の平均正答率を目指す。

- ・指標/全国平均正答率を基準に横須賀市の平均正答率の割合を算出し、平成33年には、小学校6年生、中学校3年生の国語A・Bと算数/数学A・Bの平均正答率の指数をそれぞれ100とする。

目標②：同一集団の経年変化に着目し、改善した状況を示す指数の上昇を目指す。

- ・指標/平成26年度小学校6年生から平成29年度中学校3年生までの同一集団における4年間の児童生徒の改善した状況を表す指数の変化を基準として、平成33年には、現小学校3年生から5年生の児童それぞれの中学生時の国語の指数を6.8、数学の指数を3.2上昇させる。

目標③：横須賀市立小・中学校学習状況調査(国語・算数/数学)において、平均正答率の度数分布、40%未満(A層)の割合の減少を目指す。

- ・指標/平成29年度の小学校5年生、中学校2年生を基準値として、平成33年には、小学校5年生において国語6.6%、算数8.2%、中学校2年生において国語5.3%、数学4.8%減少させる。

目標④：学習意欲と相関のある「自己肯定感」を示す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

- ・指標/横須賀市学習状況調査の「自分の意見は自信をもって言えますか」「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか」「自分にはいいところがあると思いますか」という質問に対して、平成33年には前年度と比較し、小学校5年生、中学校2年生の同一集団の肯定的回答の割合を増やす。

目標⑤：学習意欲と相関のある「学習集団、学級集団」の状況を表す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

- ・指標/横須賀市学習状況調査の「学級はみんなで決めた学級のめあてを守っていますか」「学級会では意見が出しやすいですか」「学級の人たちは協力的で助け合っていると思いますか」という質問に対して、平成33年には前年度と比較し、小学校5年生、中学校2年生の同一集団の肯定的回答の割合を増やす。

目標①～⑤を達成することで、「確かな学力」の育成を図ります。

学校

学校が取り組むべき
3つの提言

提言1 学力向上に向けた課題解決のために、
教育課程を編成し、組織的に取り組みます。

提言2 指導力の向上を図るために、
校内研究を充実させます。

提言3 学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が
一体となった授業づくりを行います。

教育委員会

横須賀子ども学力向上
プロジェクト

①学校体制の確立に関する事業

②学習環境の整備に関する事業

③学習機会の拡大に関する事業

④教員の指導力向上に関する
事業

⑤学習状況、体力状況の把握と
指導改善に関する事業

⑥家庭学習の確立に関する事業

※プロジェクトについては実施計画に合わせて改訂します。

学力向上推進プラン目標及び目標指標について

目標① 全国学力・学習状況調査において、小学校6年生、中学校3年生ともに全国の平均正答率を目指す。

基準値（平成29年度）			目標値（平成33年度）		
小学校6年生	国語A	93.6	小学校6年生	国語A	100
	国語B	90.4		国語B	100
	算数A	94.1		算数A	100
	算数B	89.3		算数B	100
中学校3年生	国語A	98.2	中学校3年生	国語A	100
	国語B	97.0		国語B	100
	数学A	96.0		数学A	100
	数学B	97.7		数学B	100

(1) 目標設定の理由

全国学力・学習状況調査では、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、全ての児童生徒に身に付けさせるべき基盤的な内容を調査問題として出題しており、全国的な児童生徒の学力との比較をすることで、身に付けさせるべき基盤的な内容の確実な定着を図る視点から設定しました。

(2) 指標と目指すべき状況

全国平均正答率を基準に横須賀市の平均正答率の割合を算出し、平成33年には、小学校6年生、中学校3年生の国語A・Bと算数／数学A・Bの平均正答率の指数をそれぞれ100とし、全国平均を目指します。

目標② 同一集団の経年変化に着目し、改善した状況を示す指数の上昇を目指す。

基準値（平成29年度）	子どもたちの改善した状況を表す指数の変化	目標値（平成33年度）
小学校3年生 国語 93.5 算数 92.7	国語 6.8 算数／数学 3.2	中学校1年生 国語 100.3 数学 95.9
小学校4年生 国語 93.3 算数 95.8		中学校2年生 国語 100.1 数学 99.0
小学校5年生 国語 93.8 算数 92.0	(平成26年度～平成29年度)	中学校3年生 国語 100.6 数学 95.2

(全国学力・学習状況調査、横須賀市立小・中学校学習状況調査)

(1) 目標設定の理由

同一集団の経年変化を追うことは、個々の児童生徒に対する指導の改善・充実を図るとともに、

子どもたちの成長が見えるものとなり、学校の取組の成果についても明らかになることから、この目標を設定しました。

(2) 指標と目指すべき状況

平成 26 年度小学校 6 年生から平成 29 年度中学校 3 年生までの同一集団における 4 年間の子ども達の改善した状況を表す指数の変化を基準として算出します。平成 33 年には、現小学校 3 年生から 5 年生の児童それぞれの中学生時の国語の指数を 6.8、数学の指数を 3.2 上昇させることにより、児童生徒が確実な力を付けることを目指します。

目標③ 横須賀市立小・中学校学習状況調査(国語・算数／数学)において、平均正答率の度数分布、40%未満(A層)の割合の減少を目指す。

基準値 (平成 29 年度)	子どもたちの改善した状況を表す指数の変化	目標値 (平成 33 年度)
A 層 小学校 5 年生 国語 8.4% 算数 10.6%	国語 6.6 算数 8.2 (平成 26 年度～平成 29 年度)	A 層 小学校 5 年生 国語 1.8% 算数 2.4%

基準値 (平成 28 年度)	子どもたちの改善した状況を表す指数の変化	目標値 (平成 33 年度)
A 層 中学校 2 年生 国語 7.1% 数学 23.1%	国語 5.3 数学 4.8 (平成 26 年度～平成 29 年度)	A 層 中学校 2 年生 国語 1.8% 数学 18.3%

※A層が一番少ない年度を基準としています。(横須賀市立小・中学校学習状況調査 度数分布)

(1) 目標設定の理由

学力の分布に視点を当て、学力の差異に着目して改善を図ることで、個々の児童生徒に対する指導の改善・充実を図るとともに、学級集団の学力を上げることにともなることから、この目標を設定しました。

(2) 指標と目指すべき状況

小学校 5 年生、中学校 2 年生それぞれ、A 層の一番少ない年度を基準値として、平成 33 年には、小学校 5 年生において国語 6.6%、算数 8.2%、中学校 2 年生において国語 5.3%、数学 4.8%減少させることにより、学習に課題がある児童生徒の割合の改善を図り、学力の差異が少ない状況を目指します。

目標④ 学習意欲と相関のある「自己肯定感」を示す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

(1) 目標設定の理由

横須賀市が独自に行った「学力・体力・生活意識調査等を活用した専門的な課題分析に関する調査」では、学力の3要素の一つとして示されている「主体的に学習に取り組む態度」いわゆる学習意欲と「自己肯定感」との相関が明らかとなりました。そこから、「自己肯定感」を高めることが学習意欲を高め、「確かな学力」の育成につながると捉え、この目標を設定しました。

(2) 指標と目指すべき状況

【指標設問】(横須賀市立小・中学校学習状況調査質問紙)

- ・ 自分の意見は自信をもって言えますか
- ・ 自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか
- ・ 自分にはいいところがあると思いますか

この目標は児童生徒一人一人の意識を指標としています。児童生徒一人一人の自己肯定感を高めることが重要であることから、ここまで上がればよいといった具体的な数値目標を設定するのではなく、同一集団の変容を目指すべき状況として示しています。

上記の3つの設問について、平成33年には、小学校5年生と中学校2年生において、前年度の調査よりも肯定的な回答をする児童生徒の割合が増えることを目指します。

目標⑤ 学習意欲と相関のある「学習集団、学級集団」の状況を表す設問において、同一集団の肯定的回答の増加を目指す。

(1) 目標設定の理由

横須賀市が独自に行った「学力・体力・生活意識調査等を活用した専門的な課題分析に関する調査」では、学力の3要素の一つとして示されている「主体的に学習に取り組む態度」いわゆる学習意欲と「学習集団、学級集団の状況」との相関が明らかとなりました。そこから、「学習集団、学級集団の状況」を良好にすることが学習意欲を高め、「確かな学力」の育成につながると捉え、この目標を設定しました。

(2) 指標と目指すべき状況

【指標設問】(横須賀市立小・中学校学習状況調査質問紙)

- ・ 学級はみんなで決めた学級のめあてを守っていますか
- ・ 学級会では意見を出しやすいですか
- ・ 学級の人たちは協力的で助け合っていると思いますか

この目標は児童生徒一人一人の意識を指標としています。学習集団、学級集団の状況を良好にすることが重要であり、ここまで上がればよいといった具体的な数値目標を設定するのではなく、同一集団の変容を目指すべき状況として示しています。

上記の3つの設問について、平成33年には、小学校5年生と中学校2年生において、前年度の調査よりも肯定的な回答をする児童生徒の割合が増えることを目指します。

